

国連大学視察団が現地へ

世界農業遺産の推薦機関である国連大学の関係者が5月4日、国東市と豊後高田市を訪れ、クヌギ林やため池などを現地調査しました。広瀬勝貞県知事や国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会の林浩昭会長(安岐町両子)が、クヌギ林と原木しいたけの関係性や、ため池の整備などについて説明。調査員らは伝統的な農法に感銘を受けた様子でした。

松ヶ迫池(武蔵町吉広)で視察団に説明する関係者のみなさん▶



国東市の伝統農法

クヌギ林とため池 松ヶ迫池(武蔵町吉広)など

- ・池の周囲に広がるクヌギ林としいたけ栽培に欠かせない原木の供給
- ・ため池を活用した散水による高品質なしいたけ生産

ため池群と連携水路 美迫池(国東町綱井)など

- ・谷奥から下流域まで小規模なため池を連携させた用水供給システム
- ・効率的に労働力、用水を配分した日本唯一の農法が継続

関係者に感謝

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

会長 林 浩昭

石川県での国際会議の席におきまして、世界農業遺産に認定されるとのお知らせを受けました。ここに至るまで、地域や県民のみなさんのご支援、また農林水産省、国連大学、APU立命館アジア太平洋大学、県や市町村のご協力により、短い期間で認定をいただいたことに対してお礼を申し上げます。

今後は世界農業遺産の名に恥じないよう、種々の活動を通じてこの貴重なシステムをきちんと次代に受け継ぎ、地域振興が図られるよう努力してまいります。ありがとうございます。



▲5月30日、世界農業遺産の認定証を受け取った林浩昭会長(左から3人目)



登録決定の知らせを受け、さっそく「祝認定」の横断幕が掲げられた国東市役所。

